



# 2026年卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

2025年4月

株式会社キャリアタス / キャリタスリサーチ

# 調査概要

2026年卒・理系学生の3月までの活動状況や志向に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

## <目次>

- 1. インターンシップ等\*に関する情報を探した時期 P 3
- 2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと P 4
- 3. インターンシップ等参加状況①（参加類型） P 5
- 4. インターンシップ等参加状況②（参加時期、社数） P 6
- 5. インターンシップ等参加状況③（プログラム内容） P 7
- 6. 志望業界（11月時点） P 8
- 7. 第1志望業界になったきっかけ P 9
- 8. 就職活動に関する情報の入手先 P10
- 9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点 P11
- 10. 「面白そう」と感じる仕事 P12
- 11. 推薦の利用予定 P13
- 12. 工場見学・研究所見学等の状況 P14
- 13. 3月時点の就職活動量 P15
- 14. 3月時点の就職活動状況 P16

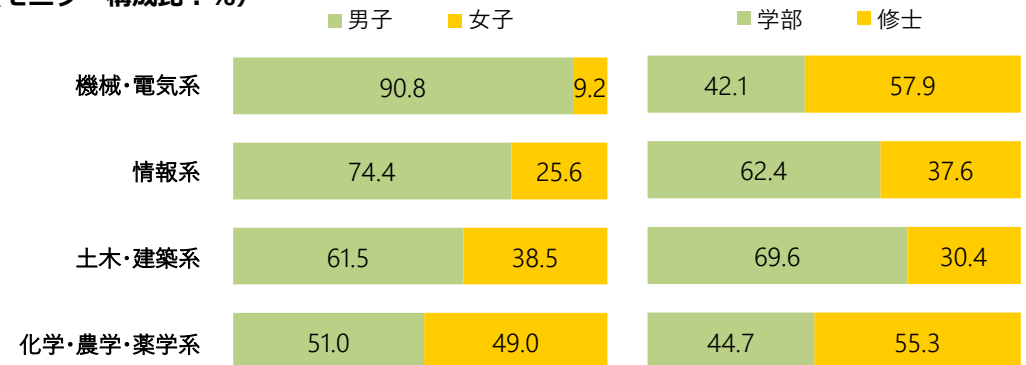
## <調査概要>

調査対象 : 2026年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生  
 サンプルング : キャリタス就活 学生モニター2026  
 調査方法 : インターネット調査法

	第2回調査	第3回調査	第5回調査	インターンシップ等 特別調査
調査時期	2024年11月	2025年1月	2025年3月	2025年3月
回答者数	1,054人	1,011人	1,105人	706人
理系全体	348人	336人	392人	280人
機械・電気系	64人	68人	79人	63人
情報系	58人	70人	78人	53人
土木・建築系	42人	35人	40人	30人
化学・農学・薬学系	139人	116人	143人	94人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

## (モニター構成比：%)

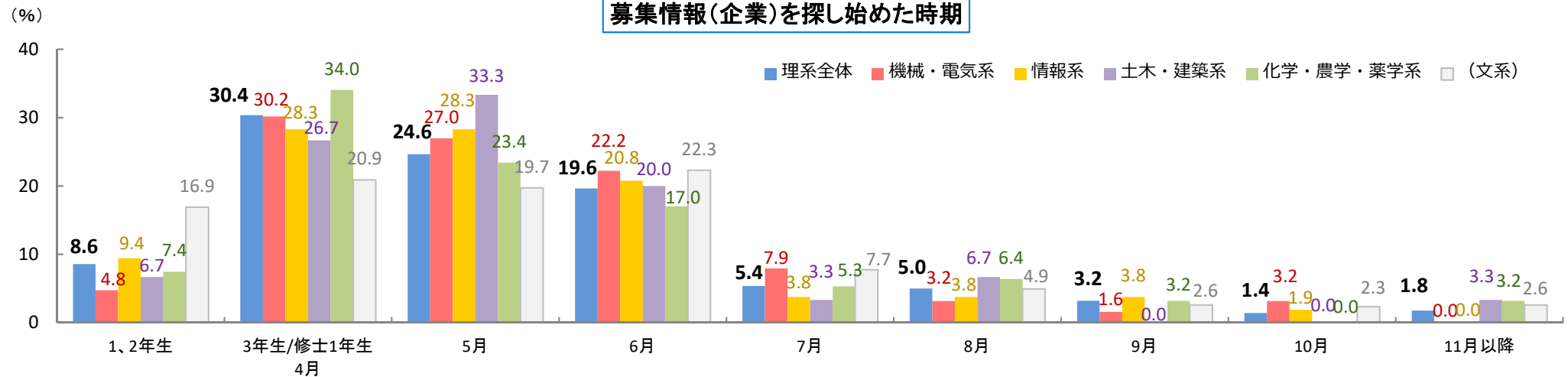


\*インターンシップに限定せず、オープン・カンパニー等も含めて調査

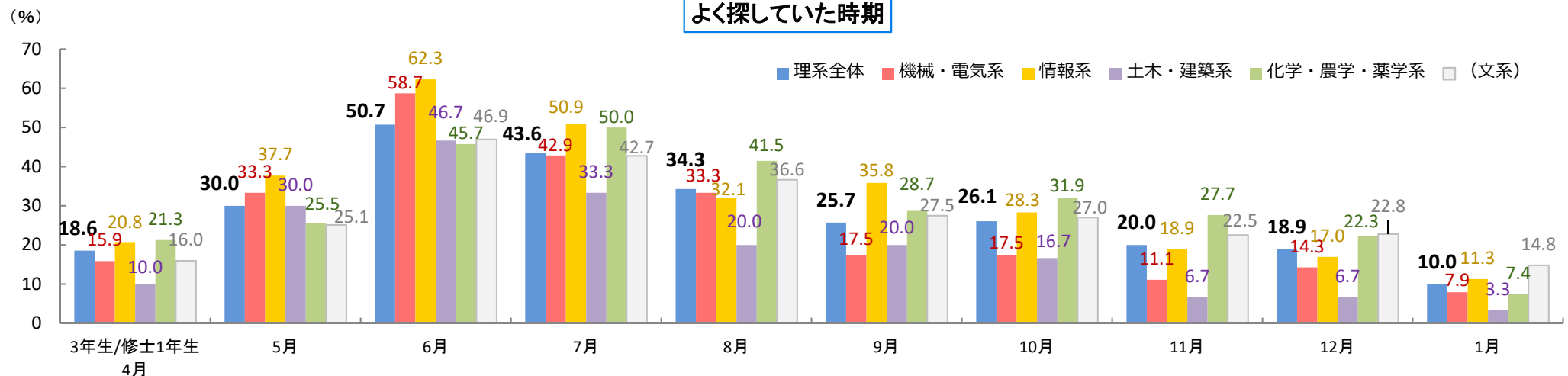
# 1. インターンシップ等に関する情報を探した時期

- 探し始めた時期は、理系全体では3年生/修士1年生の4月が最多。文系は6月が最も多く、理系学生の動き出しの早さが目立つ。
- よく探していた時期は、理系全体で6月が5割に上り、次いで7月の順。夏季プログラムの情報収集が盛んだった様子が見て取れる。
- 情報系や化学・農学・薬学系は9月以降も比較的高く推移しており、秋や冬のプログラムを探す学生も少なくない。

募集情報(企業)を探し始めた時期

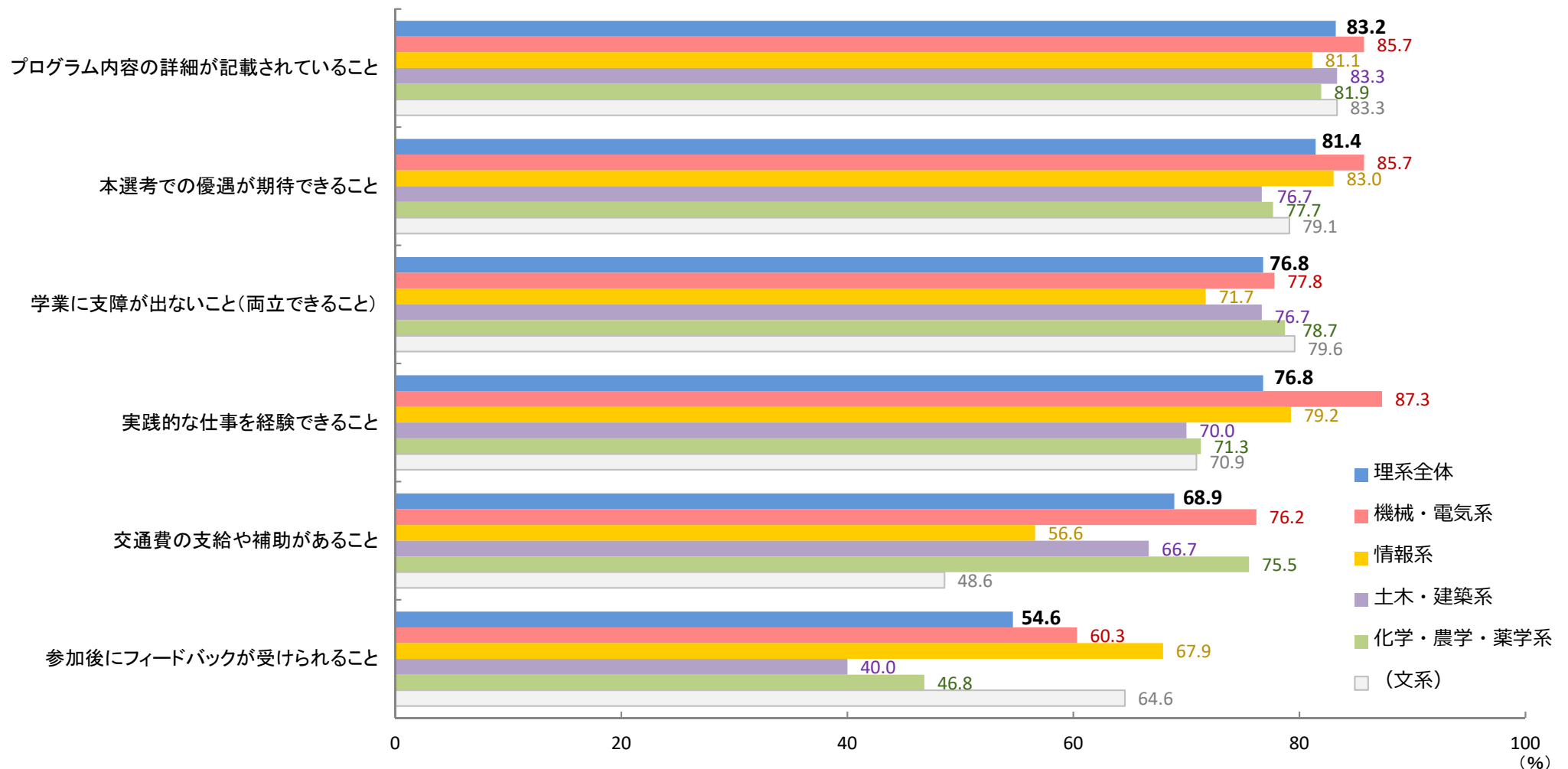


よく探していた時期



## 2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと

- 応募時に重視した点は、理系全体では「プログラムの詳細が記載されていること」が最多（83.2%）。属性によらず高く、内容重視の傾向。
- 機械・電気系は「実践的な仕事を体験できること」（87.3%）や「本選考での優遇が期待できること」（85.7%）などが他の専攻学生より高い。
- 情報系は「参加後にフィードバックが受けられる」が他より高く（67.9%）、「交通費の支給や補助がある」は低め（56.6%）。

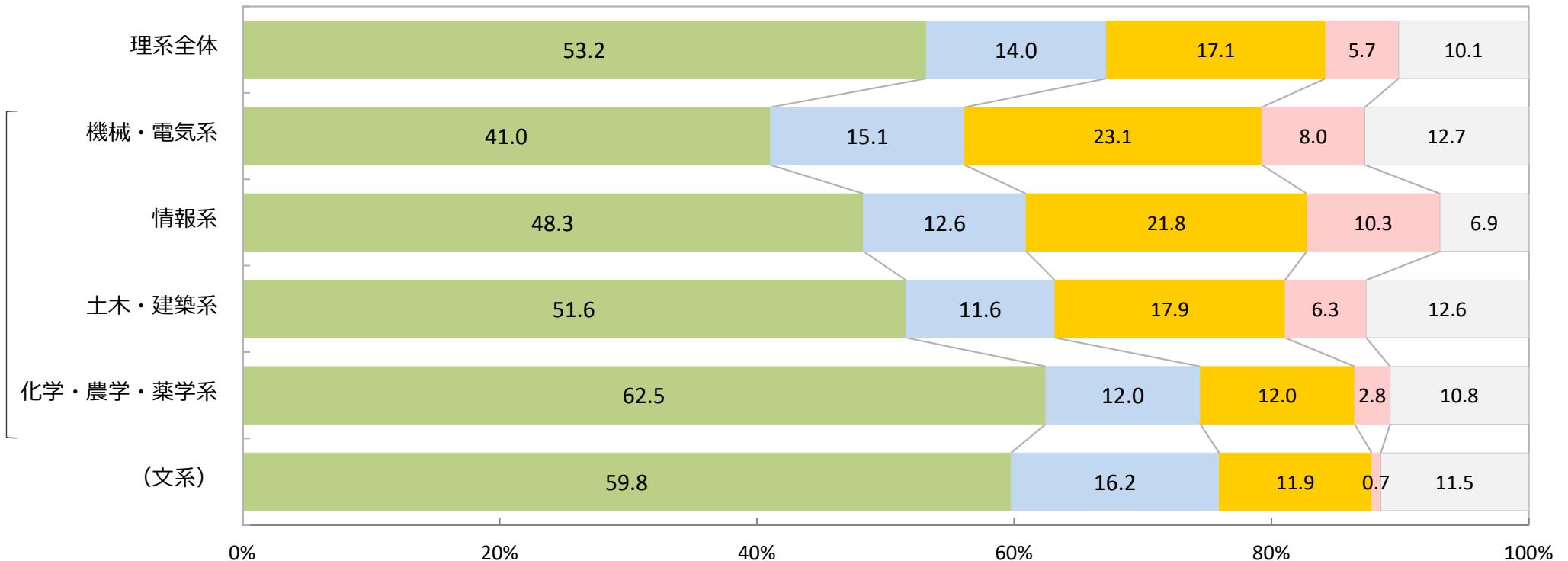


### 3. インターンシップ等参加状況①(参加類型)

- 「タイプ1：オープン・カンパニー」への参加が過半数を占めるが（53.2%）、文系に比べ「タイプ3：インターンシップ」の割合が高い（計22.8%）。
- 情報系、機械・電気系においては「タイプ3：インターンシップ」の割合は3割を超える（計32.1%、計31.1%）。
- 化学・農学・薬学系は「タイプ1：オープン・カンパニー」が6割を占める。文系学生に近い傾向を示している。

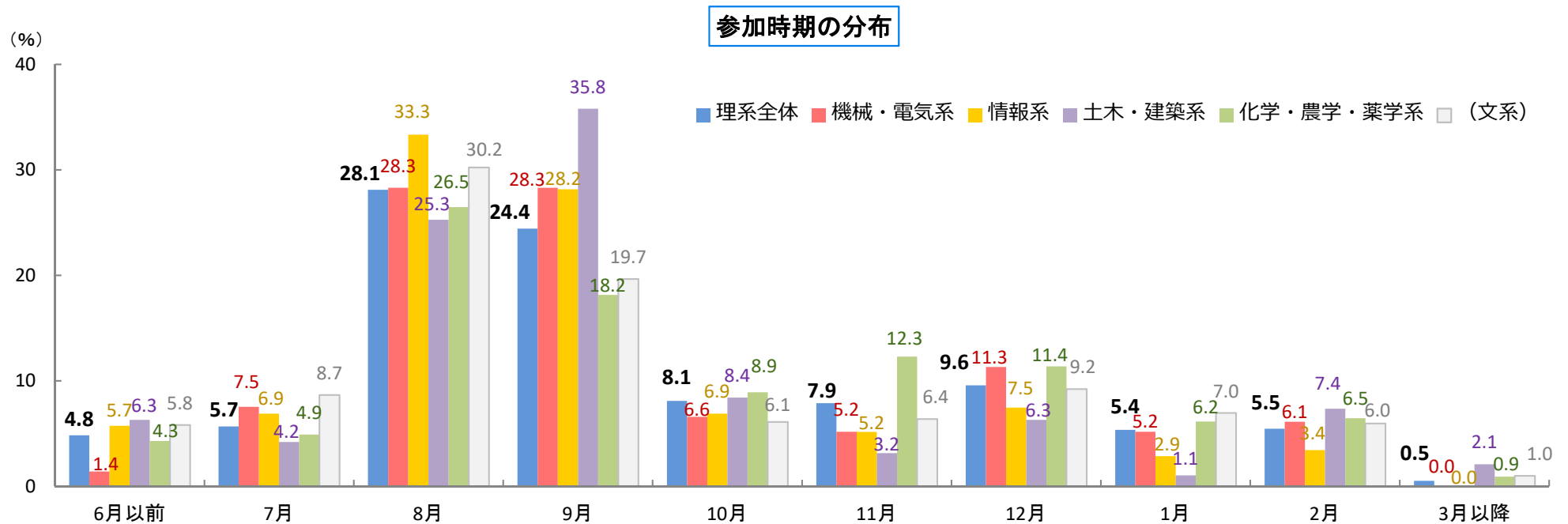
参加プログラムの類型(分布)

- タイプ1：オープン・カンパニー
- タイプ2：キャリア教育
- タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ（5日間以上）
- タイプ3-②：専門活用型インターンシップ（2週間以上）
- どのタイプに分類されるかわからない、その他



## 4. インターンシップ等参加状況②(参加時期、社数)

- いずれの属性も8月・9月の夏季休暇中に集中。特に情報系と土木・建築系で夏の参加割合が高い。化学・農学・薬学系は秋以降も比較的多い。
- 参加社数は文理差が見られ、文系12.8社に対し理系は9.5社。理系の方が3.3社少ない。
- 理系の中では化学・農学・薬学系と情報系が比較的多く（11.1社、9.8社）、土木・建築系は5.5社と少ない。

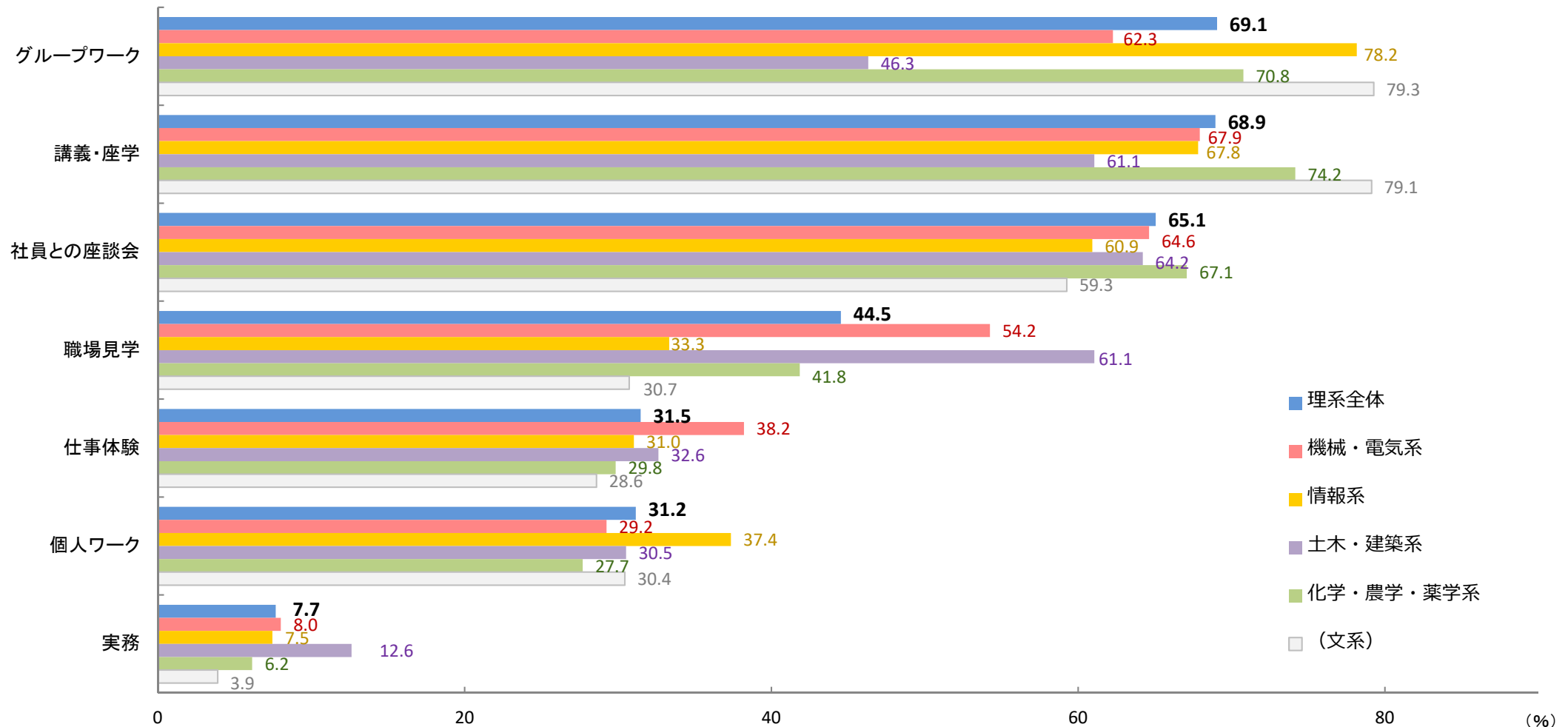


インターンシップ等の応募社数・参加社数

	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	(文系)
インターンシップ等応募社数／平均	16.3社	14.1社	14.9社	9.6社	20.9社	21.4社
インターンシップ等参加社数／平均	9.5社	8.6社	9.8社	5.5社	11.1社	12.8社

## 5. インターンシップ等参加状況③(プログラム内容)

- 情報系学生は「グループワーク」の割合が理系の中で最も高く（78.2%）、「職場見学」は低い（33.3%）。
- 土木・建築系は逆に「職場見学」が高く（61.1%）、「グループワーク」は他の専攻分野に比べ低い（46.3%）。
- 機械・電気系は「仕事体験」の割合が理系の中で最も高い（38.2%）。



## 6. 志望業界(11月時点)

- いずれも専攻分野との関連性が強く表れている。情報系学生はIT業界に、土木・建築系は「建設・住宅・不動産」にポイントが集中。
- 機械・電気系学生の志望業界は、「電子・電機」が1位（61.4%）。次いで「機械・プラントエンジニアリング」（42.1%）。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」（50.0%）、2位「水産・食品」（44.4%）、3位「医薬品・化粧品」（43.7%）の順。

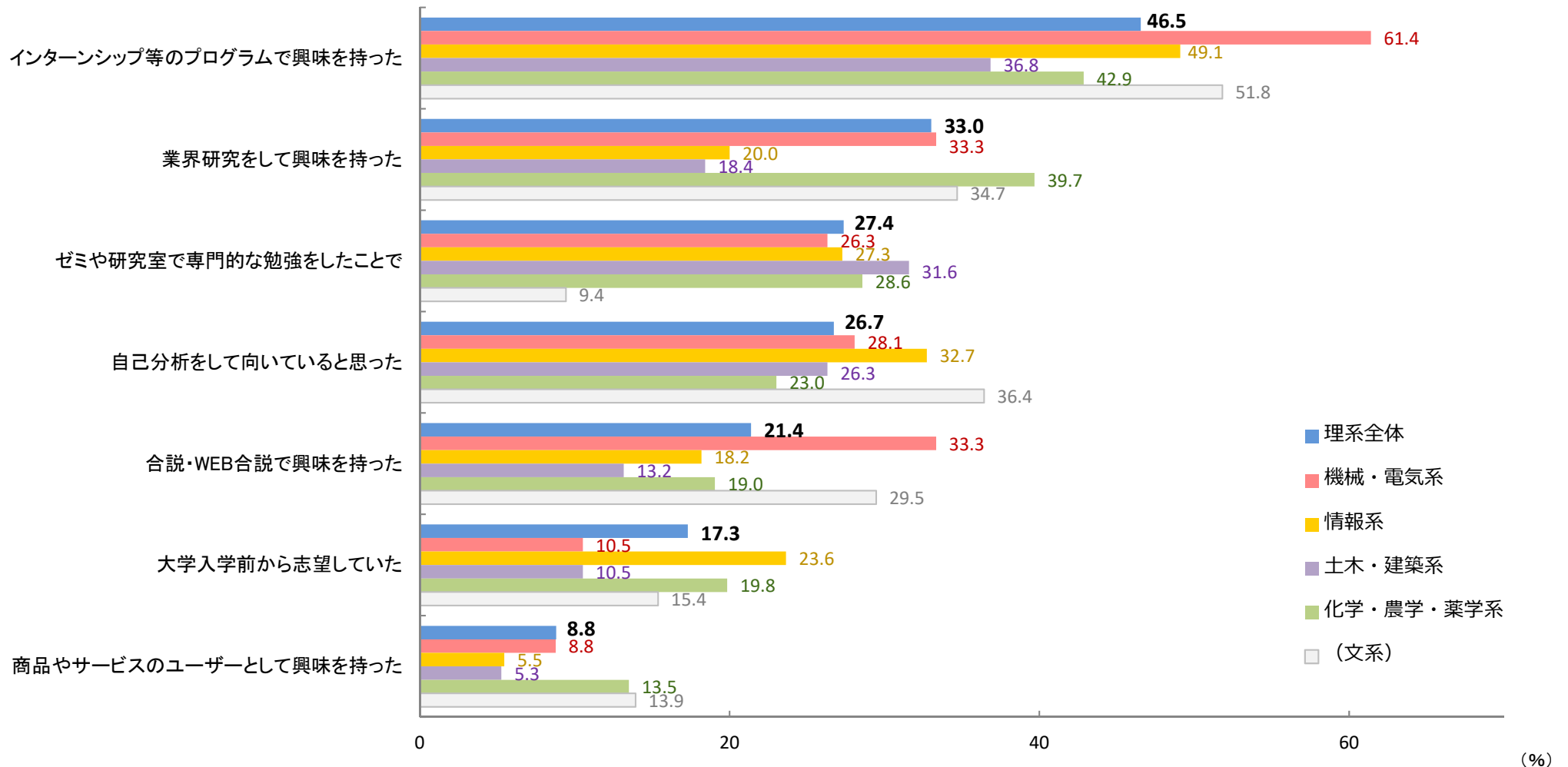
※5つまで選択 (%)

理系全体		機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系		(文系)		
1	素材・化学	24.8	電子・電機	61.4	情報・インターネットサービス	76.4	建設・住宅・不動産	78.9	素材・化学	50.0	銀行	23.7
2	情報・インターネットサービス	24.5	機械・プラントエンジニアリング	42.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	74.5	エネルギー	18.4	水産・食品	44.4	マスコミ	18.3
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	23.0	自動車・輸送用機器	35.1	通信関連	32.7	官公庁・団体	15.8	医薬品・医療関連・化粧品	43.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.1
4	電子・電機	20.8	精密機器・医療用機器	22.8	電子・電機	16.4	農業・林業・鉱業	13.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	17.5	情報・インターネットサービス	15.8
5	医薬品・医療関連・化粧品	20.1	情報・インターネットサービス	17.5	機械・プラントエンジニアリング	9.1	運輸・倉庫	10.5	調査・コンサルタント	12.7	調査・コンサルタント	15.1
	水産・食品		通信関連		エネルギー		素材・化学		商社(総合)		11.9	
7	機械・プラントエンジニアリング	13.5	素材・化学	14.0	調査・コンサルタント	7.3	情報・インターネットサービス	7.9	情報・インターネットサービス	10.3	官公庁・団体	14.5
8	自動車・輸送用機器	12.6	エネルギー		マスコミ		水産・食品		鉄鋼・非鉄・金属製品		商社(総合)	
9	建設・住宅・不動産	12.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.3	銀行	7.3	自動車・輸送用機器	7.9	エネルギー	9.5	建設・住宅・不動産	12.5
	通信関連		鉄鋼・非鉄・金属製品		エンターテインメント		調査・コンサルタント		銀行		保険	
									農業・林業・鉱業			



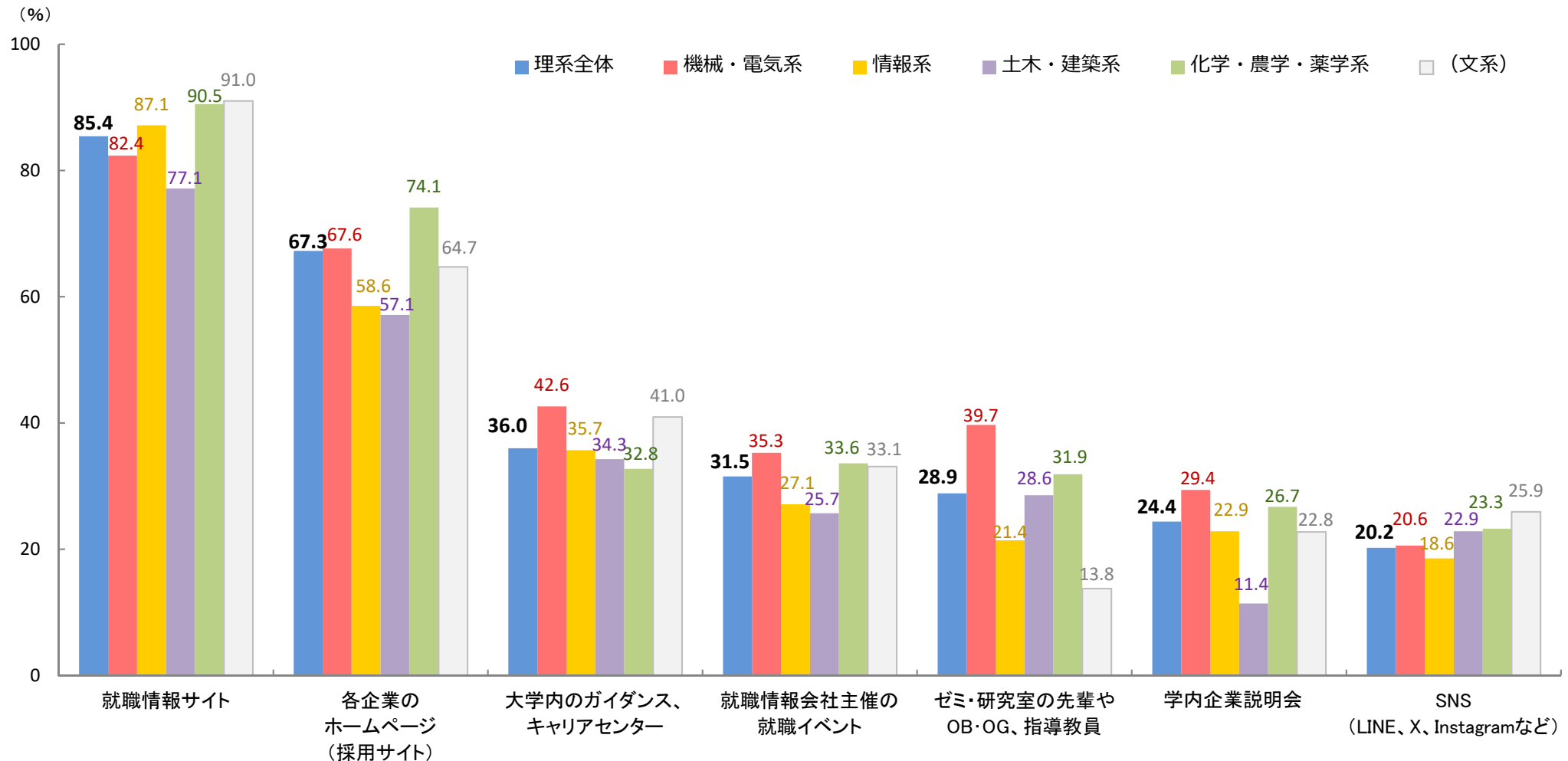
## 7. 第1志望業界になったきっかけ

- 「インターンシップ等のプログラムで興味を持った」がすべての属性で最多。機械・電気系は6割超（61.4%）。
- 情報系学生は「自己分析をして」や「大学入学前から志望」が他より高く、化学・農学・薬学系は「業界研究をして」が高い。
- 機械・電気系は「インターンシップ等」のほかに、「合説・WEB合説」に参加したことで志望につながった割合も高い。



## 8. 就職活動に関する情報の入手先(1月時点)

- すべての属性で「就職情報サイト」が最も多く、文理や専攻分野によらず広く利用されている。
- 次いで「各企業のホームページ」。特に化学・農学・薬学系で高い（74.1%）。情報系や土木・建築系は低め。
- 文理差が大きいのは「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」。機械・電気系で比較的高い（39.7%）。



## 9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

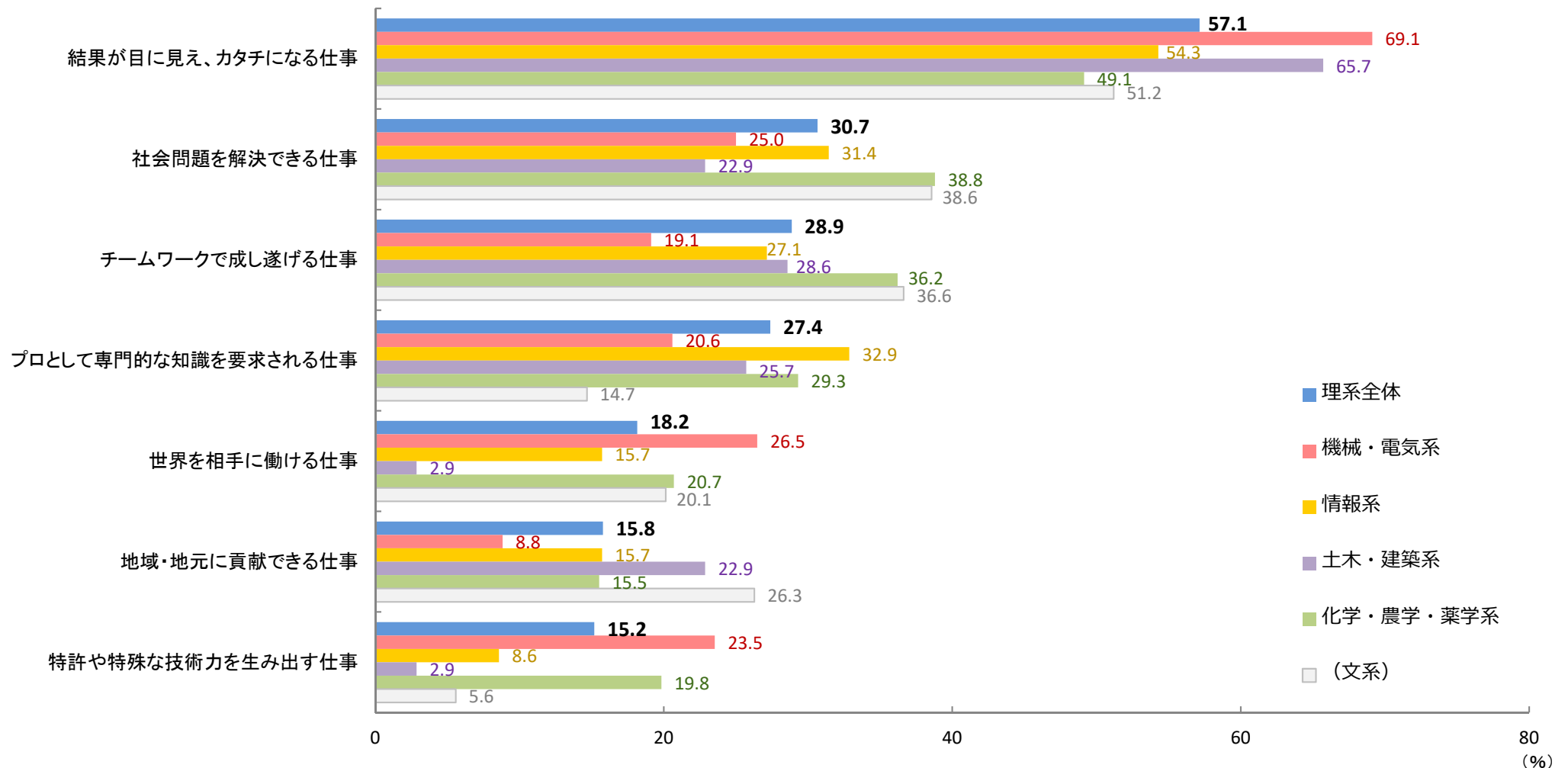
- 文系・理系とも「給与・待遇が良い」が1位で、「将来性がある」が2位。この2項目は文理に関わらず重要な視点となっている。
- 理系は文系に比べ「大企業である」ことを重視する傾向が強い（理系4位、文系8位）。情報系学生では最も多くが選んだ。
- 化学・農学・薬学系は「希望の勤務地で働ける」が他の専攻分野より高め（3位）。

※5つまで選択（%）

	理系全体					(文系)						
		機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系							
1	給与・待遇が良い	46.7	将来性がある	48.5	大企業である	37.1	給与・待遇が良い	45.7	給与・待遇が良い	49.1	給与・待遇が良い	48.0
2	将来性がある	42.0	給与・待遇が良い	47.1	給与・待遇が良い	35.7	将来性がある	42.9	将来性がある	44.8	将来性がある	39.2
3	福利厚生が充実している	31.8	大企業である	39.7	将来性がある	32.9	福利厚生が充実している	37.1	希望の勤務地で働ける	32.8	休日・休暇が多い	34.2
4	大企業である	30.7	福利厚生が充実している	35.3	福利厚生が充実している	31.4	有名企業である	34.3	福利厚生が充実している	31.0	福利厚生が充実している	30.6
5	希望の勤務地で働ける	26.2	業績・財務状況が良い	32.4	業績・財務状況が良い		大企業である	28.6	職場の雰囲気が良い	26.7	社会貢献度が高い	27.2
6	業績・財務状況が良い	24.7	社会貢献度が高い	26.5	有名企業である	28.6	休日・休暇が多い	25.7	社会貢献度が高い	24.1	業績・財務状況が良い	25.6
7	有名企業である	24.1	業界内の順位が高い	26.5	休日・休暇が多い		職場の雰囲気が良い		大企業である	23.3	職場の雰囲気が良い	24.9
8	休日・休暇が多い	23.5	有名企業である	20.6	希望の勤務地で働ける	27.1	社会貢献度が高い	22.9	休日・休暇が多い		大企業である	24.7
9	社会貢献度が高い	22.3	休日・休暇が多い	17.6	業界内の順位が高い	22.9	希望の勤務地で働ける		業績・財務状況が良い		希望の勤務地で働ける	24.2
10	業界内の順位が高い	22.0	高いスキルが身に付く		仕事内容が魅力的	20.0	業績・財務状況が良い	17.1	有名企業である	21.6	有名企業である	19.9
							業界内の順位が高い		業界内の順位が高い			

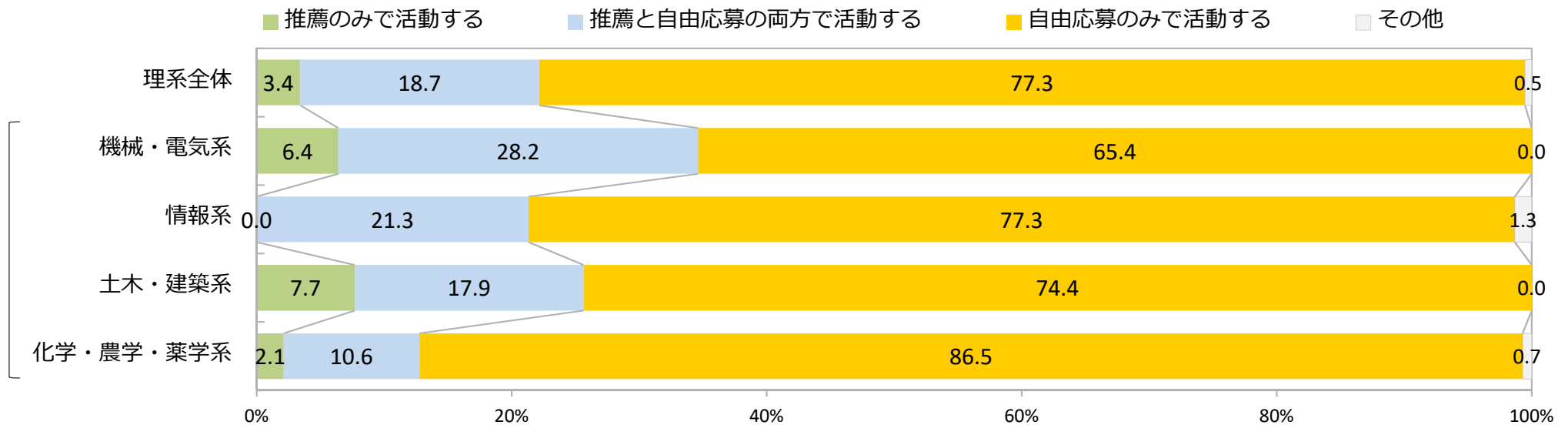
## 10. 「面白そう」と感じる仕事

- 理系全体で最も多いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」（57.1%）。特に機械・電気系、土木・建築系で高い（69.1%、65.7%）。
- 一方で、機械・電気系は「世界を相手に働ける仕事」が他より高く、土木・建築系は「地域・地元貢献できる仕事」が高い点は対照的。
- 化学・農学・薬学系は「社会問題を解決できる仕事」が理系の中では高く、情報系は「プロとして専門的な知識を要求される仕事」が他より高い。



# 11. 推薦の利用予定

- 推薦の利用予定者は理系全体の約2割（自由応募との併願含め22.1%）。機械・電気系学生で比較的多く、3割を超える（同34.6%）。
- 自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」が最多（34.5%）。特に土木・建築系と化学・農学・薬学系で多い。
- 機械・電気系は「できるだけ多くの企業を受けたい」が他より多く（28.8%）、情報系は「推薦で内定が出たら辞退できない」が多い（18.9%）。



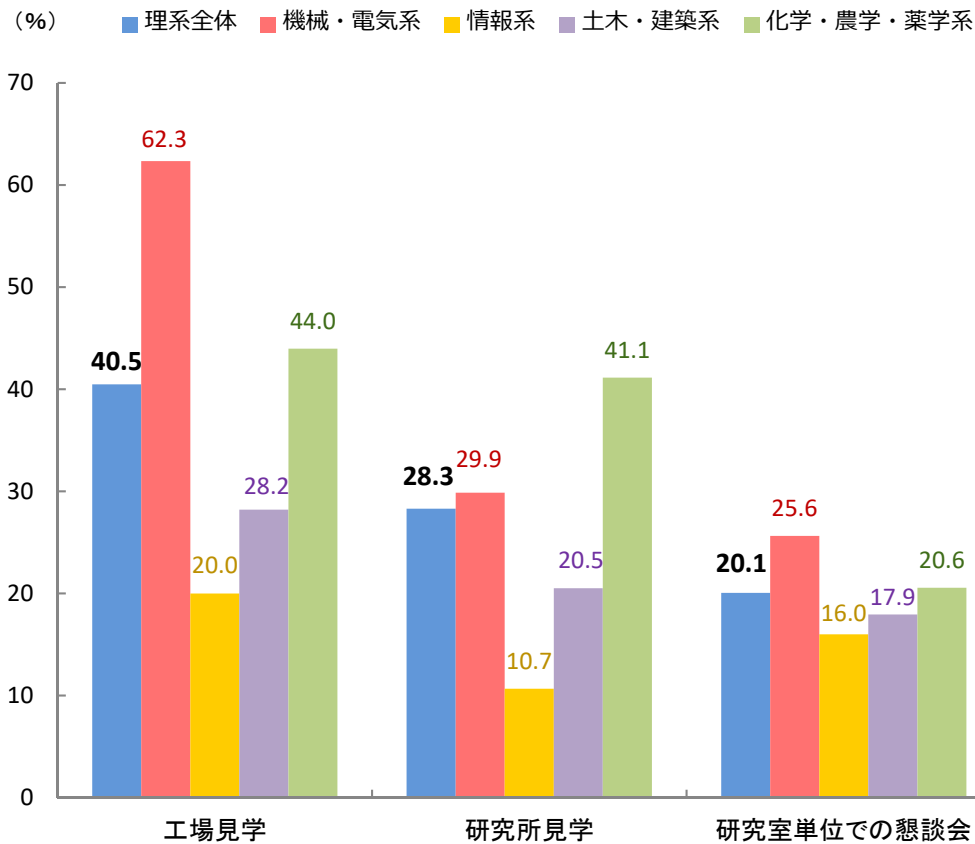
【自由応募で活動をする理由】

	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系
希望の企業からの推薦枠がないから	34.5	23.3	25.7	45.7	39.6
できるだけ多くの企業を受けたいから	17.5	28.8	16.2	14.3	15.7
推薦で内定が出たら辞退できないから	16.4	16.4	18.9	14.3	17.9
自分で就職先を見つけたいから	12.8	9.6	14.9	17.1	11.2
推薦で受けても内定が取れるとは限らないから	7.5	12.3	8.1	0.0	4.5
自由応募のほうが先に選考が始まるから	5.0	4.1	9.5	2.9	3.7
文系就職をしたいから	3.1	1.4	2.7	0.0	6.0
推薦枠はあるが学内の競争率が高いから	2.5	2.7	4.1	5.7	0.7
その他	0.6	1.4	0.0	0.0	0.7

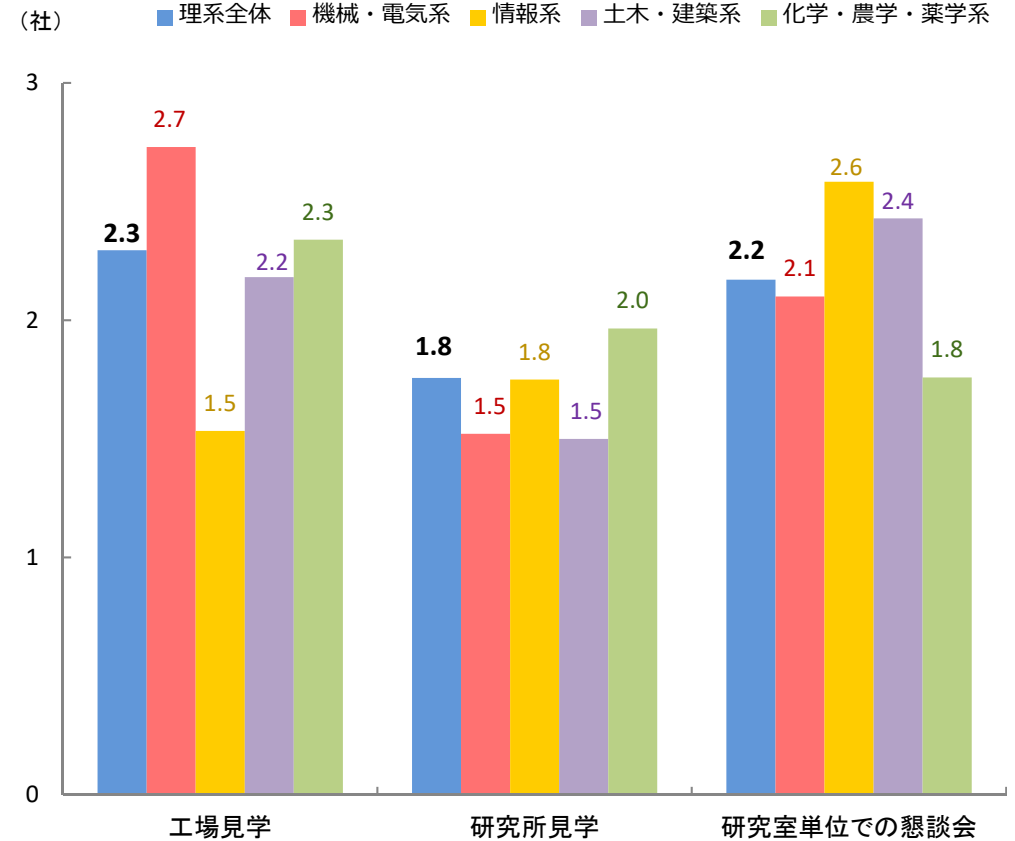
## 12. 工場見学・研究所見学等の状況(3月時点)

- 3月時点で、工場見学への参加経験は機械・電気系学生で多く、6割以上が参加（62.3%）。参加社数も他の専攻より多い（平均2.7社）。
- 研究所見学の経験は化学・農学・薬学系で多い（41.1%）。参加社数も最も多い（2.0社）。
- 情報系学生は、工場や研究所を持たないIT業界の志望者が大半であることから、経験・社数とも他の専攻分野に比べ少ない。

参加経験



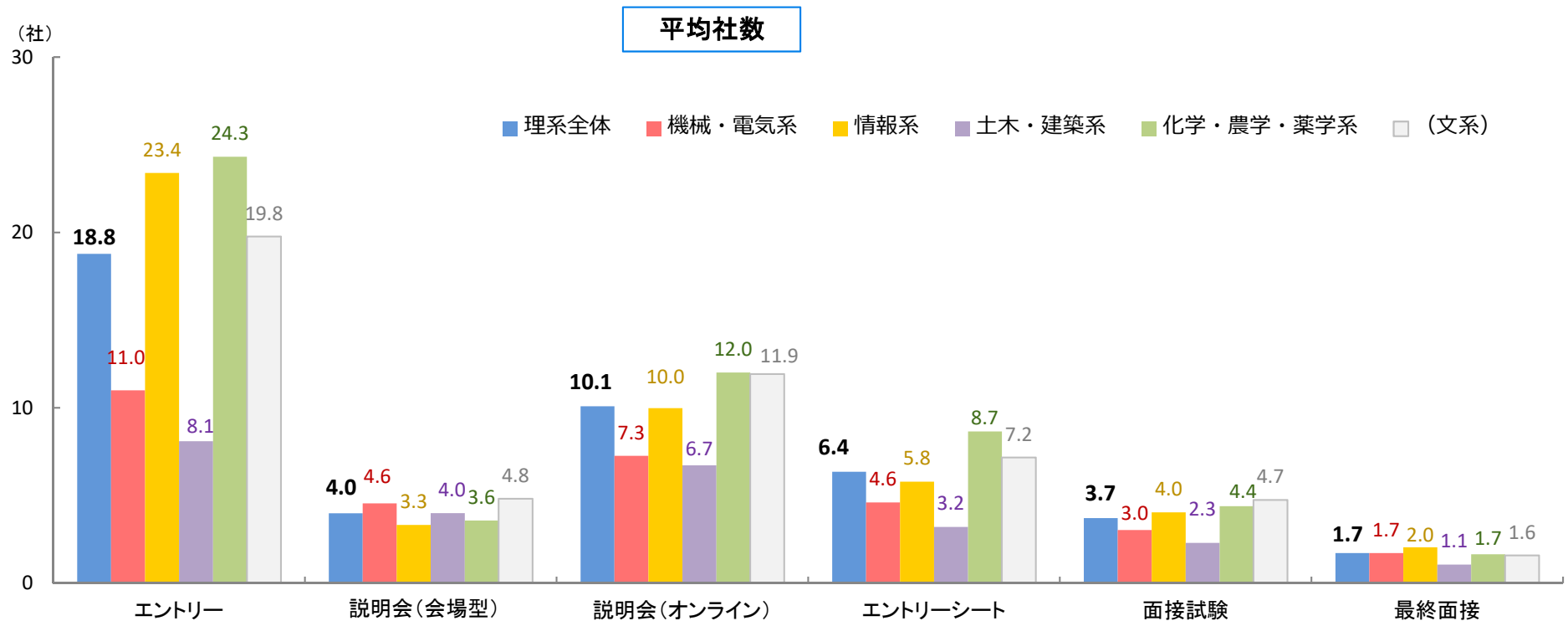
平均社数



※「研究室単位での懇談会」は、研究室の卒業生やリクルーター、人事担当者などを交えた懇談会について回答

## 13. 就職活動量(経験率と平均社数/3月時点)

- 3月1日時点の理系学生のエントリー社数は平均18.8社。化学・農学・薬学系と情報系は20社を超える(24.3社、23.4社)。
- 理系の中でも、機械・電気系、土木・建築系はエントリー社数、ES提出社数ともに少なく、化学・農学・薬学系は比較的多い。
- 最終面接の経験率は、文理による差が大きく、理系の方が高い。特に、機械・電気系や情報系学生で高い。



### 【経験率】

	エントリー	説明会(会場型)	説明会(オンライン)	エントリーシート	面接試験	最終面接
理系全体	88.2	50.6	85.3	85.2	81.8	67.3
機械・電気系	88.6	57.7	81.0	84.8	78.5	68.4
情報系	82.1	43.6	86.8	80.8	82.1	67.9
土木・建築系	77.5	35.0	72.5	82.5	75.0	60.0
化学・農学・薬学系	94.4	49.7	90.9	90.9	85.3	65.7
(文系)	90.3	59.1	88.8	79.8	73.7	53.4

## 14. 就職活動状況(3月時点)

- 3月1日時点で、理系学生の58.7%が内定を獲得。文系学生（43.2%）より15ポイント以上高く、進捗の早さが見て取れる。
- 理系は活動終了者の割合も高く、就職先未決定者（=複数内定保留）も合わせると2割を超える（計21.7%）。
- 内定率が最も高いのは土木・建築系で（62.5%）、就職先決定者の割合も高い（27.5%）。

■ 活動終了（就職先決定）    ■ 活動終了（就職先未決定）    ■ 活動継続（内定あり）    □ 活動継続（内定なし）

内定あり

